

目次

ページ 番号

- 1 FUTI理事長からのご挨拶
- 2 東大友の会活動要約2007-2025
- 3-4 2025 FUTI 奨学金プログラムの報告
- 5-6 短期留学のための奨学金受賞者名簿、2025
- 7-8 中長期留学のための奨学金受賞者名簿、2025-26
- 9 FUTI トラベルアワード
- 10 FUTI 講演シリーズ
- 10 FUTI Alumni Association
- 11-12 2024-2025会計年度の募金結果
- 13-14 2024-2025会計年度財務諸表の要約
- 15 2024-2025会計年度寄付者芳名録
- 16 FUTI 組織表





皆様に2025年の年次報告書を謹んでお届け致します。

東大友の会（FUTI）は2007年の設立以来、米国と日本の優秀な学生に素晴らしい留学の機会を奨学金の支給を通して提供して参りました。これらの奨学金は疑い無く科学、技術、芸術、経済、人文行政等の分野で次世代の国際的リーダーになりうる優秀な東大生、同窓生達、米国大学生達の人生及び早期、中期のキャリア開発に大きな影響を与えて来たと自負しております。2023年には「周順圭・周滝沢愛子 奨学金」が、2025年には「小林久志記念フェローシップ」が設立され、さらに「FUTIトラベル・アワード」が東大在籍の若手研究者を支援する目的で2024年に始動いたしました。また、2025年秋には2027年の東京大学創立150周年を記念して、「寄付で東大 150 周年を祝おう」キャンペーンを開始いたしました。

現在、世界は多くの深刻な問題にさらされています。世界中で専制主義の台頭がみられ、長期化するロシアのウクライナへの軍事侵攻、イスラエル－パレスチナ軍事対立、米国・イスラエル－イラン戦争の勃発、避難民の増加、貧富の差の拡大、等々、民主主義に基づく世界秩序を震撼させています。激しくなった気象変動で各国で大規模な自然災害が引き起こされ、疫病パンデミックはまたいつ起るかもしれない状況です。これら前例のない世界規模の危機に適切に対処するためには、各分野におけるリーダーシップが要求されます。また、迅速な情報共有と国際協力が、危機を解決するのに必須であることも明らかです。

この様な観点から、FUTI の使命である「豊富な知識を持つ有能な次世代リーダーの育成」が益々重要になっていると確信しております。これまで FUTI の趣旨にご賛同していただいた皆様に心からお礼を申し上げますとともに、今後もより一層の御支援をお願い申し上げます。

東大友の会理事長 尾島 巖



奨学金、トラベル・アワード実績



中長期留学のための
奨学金

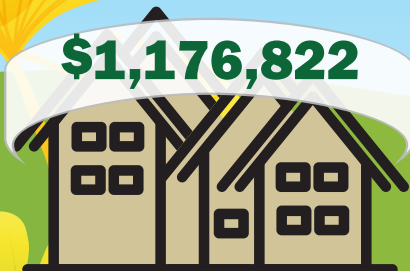


短期留学のための
奨学金



トラベル・アワード

寄附実績



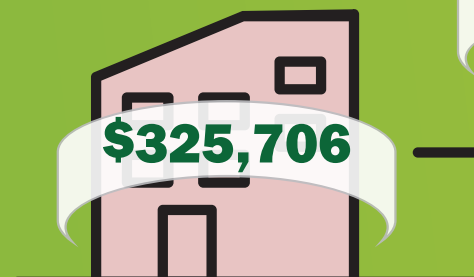
個人・その他からの
寄付金



米国伊藤財団



Shintech社



東大ニューヨークオフィス

寄付金合計

\$3,809,548



I. 概況

2025 年度は第 2 次 Trump 政権の発足で米国への留学 Visa が一時的に制限され、留学生への影響が大変心配されましたが、米国の大学が早めの Visa 取得を留学希望者に促してくれたお陰で結果的には影響が出ませんでした。以降の情勢推移を見ると、今後も Visa に大きな障害は無かろうと推察しています。

有難いことに「米国伊藤財団—FUTI 奨学金」ならびに「周順圭・周滝沢愛子 奨学金」に加え、ご支援者から引き続き多額のご寄付を頂いており、「FUTI 奨学金」を支える多数の東京大学 OB・OG からのご寄付と併せて奨学金事業を滞りなく遂行できています。2009 年から 17 年間にわたり信越化学工業(株)の米企業 Shintech Inc. から頂いて来たご支援は 2025 年で修了しました。一方で故小林久志元 FUTI 理事長・Princeton University Professor Emeritus のご寄付を主軸とする「小林久志記念奨学金」の準備が整い、2026 年度から本格的に運用されます。

円安と米国のインフレで、日本からの留学は益々費用がかかるようになりました。一方では喜ばしいことに、日本からの官民の留学奨学金は段々充実して来て、FUTI としては「市場競争の激化」を感じています。過年度卒業者の支援のような FUTI の特徴分野に人気が出ているようです。全般的にはお陰様で応募者は人数も質も高く、資金が制限要因という正常な姿で推移しています。

日本から米国の大学への留学の奨学金応募者は、東大生中心で一部他大学学生を含みます。他大学の学部卒業後に東大大学院生になった学生からの応募も多いです。

II. 中長期留学に対する奨学金

コロナ期の反動で、2024 年度は過去最高の 38 名の応募がありましたが、2025 年度はそれに次いでコロナ期を除く平年より多い 34 名と後述の+2 名でした。学位を求めない 1-2 学期の交換留学での応募が、2024 年度は丁度半数の 19 名を占めましたが、2025 年度は平年に近い 12 名と、後述の+2 名でした。これらの交換留学のほとんどは、東京大学が学内で選考し全学提携校との間で交換留学を進める USTEP プログラムによるものです。一方、全学交換留学の USTEP で FUTI が奨学金で支援するのは、従来は東京大学から米国の大学への留学だけでしたが、東京大学のご希望もあり 2025 年度から試行として、双務的に逆方向の、米国の大学から東京大学への USTEP 留学をも支援することにした所、the University of Illinois から 2 名の奨学金応募が FUTI にありました。これが上記の「+2 名」の意味です。このうち 1 名を支援することとしました。また上記 34 名の応募者の中には、筑波大学出身で米大修士に留学する学生 1 名を 2024 年と 2025 年に支



援しているのが含まれています。

選考の結果、応募 34 名+2 名から、11 名+1 名をご支援することとしました。過年度に東京大学を卒業し就職中または留学中の人の米大留学奨学金の応募者は、質量共に充実し 2025 年度一番の激戦になりました。12 名の応募から 4 名を採択しました。

採択者 11 名の分野別を見ると、国際関係が応募も採択も 2 割強で、それ以外の文系と理系がほぼ半々です。

採択した 11 名の留学先は、Harvard University が 2 名、そして American University, Columbia University, Johns Hopkins University, MIT, Parsons School of Design, Stanford University, UCLA, the University of Michigan, the University of Washington が 1 名ずつでした。

III. 短期留学に対する奨学金

東京大学から米国の大学に 3 か月以下の短期留学の奨学金応募者が 11 名あり、5 名を採択しました。留学先は、Harvard University, Johns Hopkins University, Princeton University, Stanford University, the University of Illinois でした。

米国の大学から東京大学への留学の奨学金応募者は短期が主体です。理学系の UTRIP プログラムへの留学奨学金応募の 40 名を含めて、FUTI への応募者は 55 名でしたが、UTRIP は東京大学側の選抜が激烈で、40 名の中で 8 名以外は早々と失格となりましたので、FUTI にとっての実質応募者数は $8+(55-40)=23$ 名でした。その UTRIP の 8 名の中から東京大学と FUTI の両方の関門を通過した FUTI 採択者は結局 2 名でした。柏で UTRIP 相当のプログラムは UTSIP ですが、そこで 3 名採択し、その他 1 名を加えて総計 6 名を採択しました。6 名の在学大学は、UCLA が 2 名、そして Brown University, Caltech, Columbia University, Rice University が 1 名ずつでした。

UTRIP 関連の FUTI 応募者が 40 名と前年から急増した以外は、短期留学に対する奨学金ではおよそ平年並みの推移でした。

Trump 政権の政策が米国の大学や世界経済に及ぼすであろう影響が FUTI の事業にどう関係してくるかも危惧される所です。こういう苦境の中で、前途有為の若者の支援は一段と重要になって来ました。ご寄付下さった方々に深謝申し上げますと共に、ご寄付を有効に活用して東京大学の更なる国際化と学生各位の成長に貢献できるよう、FUTI としては決意を新たにしている次第です。



注：所属、専攻及び学年は申請書類に記入された情報



サミュエル・デーゲン

Samuel Degen

UCロスアンジェルス校、学部2年
物理学

東京大学
UTRIP



ランシュアン・グオ

Lanxuan Gao

東京大学、学部4年
物理学

ハーバード大学
サマースクール



早見 星吾

Seigo Hayami

東京大学、学部3年
機械情報工学科

スタンフォード大学
Summer International Honors Program



犬丸 わかな

Wakana Inumaru

東京大学
医学

ジョンズ・ホプキンス大学
医学部 Clinical Electives



ティメア・ジャロソバ

Timea Jarosova

UCロスアンジェルス校、学部2年
微生物学、免疫学、分子遺伝学

東京大学
UTSIP-Kashiwa



レイア・リー

Reia Lee

ブラウン大学、学部1年
応用数学、生物学

東京大学
UTSIP-Kashiwa



注：所属、専攻及び学年は申請書類に記入された情報



ミルナ・ネアクス

Miruna Neacsu

カリフォルニア工科大学、学部2年
物理学

東京大学
UTSIP-Kashiwa



アツコ・プライス

Atsuko Price

ライス大学、学部2年
物理学

東京大学
UTRIP



ザカリー・ラカウカス

Zackary Rackauckas

コロンビア大学、修士1年
コンピュータ・サイエンス

東京大学
峯松研究室



杉本 遥

Haruki Sugimoto

東京大学、学部4年
総合文化研究科 国際社会科学

プリンストン大学
Visiting Student Research Program



山端 優太

Yuta Yamabata

東京大学、修士1年
機械工学

イリノイ大学Urbana-Champaign校
KIMLAB



注：所属、専攻及び学年は申請書類に記入された情報



ヴラディスラブ・ドブロクリブ

Vladyslav Dobrokhlib

東京大学
公共政策

ハーバード大学



伏尾 理久斗

Rikuto Fushio

東京大学、学部2年
応用物理学

ハーバード大学

Visiting Undergraduate Research Fellow



伊東 周昌

Shusuke Ito

東京大学、修士2年
化学工学

ミシガン大学

博士課程 材料科学と工学



岩見 隼翔

Hayato Iwami

東京大学、学部2年
機械情報工学科

MIT School of Engineering



郭 萌恵

Moe Kaku

東京大学、修士1年
公共政策

東京大学

修士1年・公共政策



神藏 大輔

Daisuke Kamikura

東京大学、2016卒
薬学系研究科

スタンフォード大学

Master of Business Administration



注：所属、専攻及び学年は申請書類に記入された情報



小磯 聡
Satoshi Koiso

東京大学、2016卒
農学生命科学獣医学

ワシントン大学

The Comparative Health Outcomes, Policy, and Economics (CHOICE) Institute
博士課程 医療経済学と医療成果研究



松川 夏子
Natsuko Matsukawa

筑波大学、学部4年
社会国際学部国際開発学

アメリカン大学

School of International Service
MA in International Development (MAID)



ヘレナ・ナリス
Helena Narisu

総合文化研究科/PEAK Japan in East Asia

コロンビア大学

School of International and Public Affairs (SIPA)
Master of International Affairs



小川 佳織
Kaori Ogawa

東京大学、2022卒
経済学

Parsons School of Design
MFA Design and Technology



ハムザ・カゼイ
Humza Qazi

イリノイ大学Urbana-Champaign校、学部3年
ジャーナリズム

東京大学

University-wide Student Exchange Program



清水 崇源
Takamoto Shimizu

東京大学、学部2年
国際関係

ジョンズ・ホプキンス大学
Krieger School of Arts and Sciences



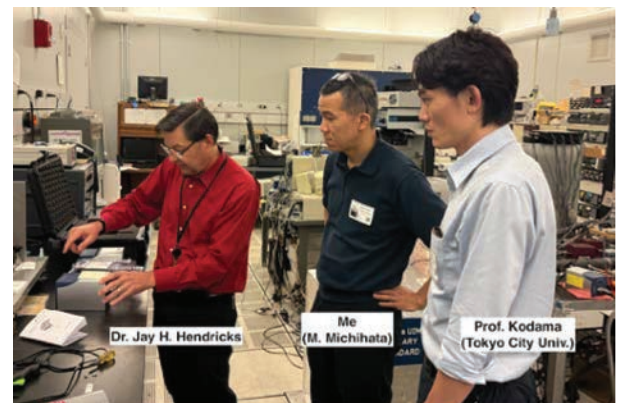
若手研究者用の FUTI トラベル・アワードは 2023 年 12 月に創設され、2024-2025 年度には 2 名が受賞しました：三木 優彰・大学院総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系複合系計画学講座助教と道畑 正岐・東京大学工学系研究科精密工学専攻精密機械システム工学講座准教授です。



2025 年 5 月、三木 優彰助教はグラナダ大学数学研究所（IMAG）にて開催された国際会議・博士課程サマースクール「建築と機械工学の幾何学的側面」に参加し、「変数射影法（VarPro）と引張圧縮混合シェルの形状決定」と題する招待講演を行いました。また、ポスターセッションでは、離散微分幾何学を建築設計に統合することに重点を置き、シェル形状決定と幾何処理に関する研究者らと意見交換を行いました。本会議に加え、サウジアラビア王立科学技術大学（KAUST）、ケンブリッジ大学、チューリッヒ工科大学（ETH Zurich）をはじめとする欧州諸機関の研究者と交流を深めました。

2025 年 6 月、道畑正岐 准教授は、ワシントン D.C. 近郊にある米国国立標準技術研究所（NIST）を訪問しました。この訪問は、現在開発中の最先端の測定技術を観察し、学ぶことが出来る、またとない貴重な機会となりました。道畑准教授は、複数の研究者や技術者と意見交換を行いました。チームリーダーのジェイ・H・ヘンドリック博士から、高精度圧力計やピストンゲージなどの圧力計測技術の最新動向、および固定長光共振器（FLOC）として開発中の新しい圧力標準器について詳しい説明を受けました。また、光周波数コムを用いた屈折率測定技術や、大型レーザー距離測定装置の校正システムについても紹介を受けました。

加えて、サウスカロライナ州グリーンビルにて開催された製造科学技術会議（MSEC）にも参加し、「持続可能性に向けた製造におけるシステムレベルモデリングと解析の進展」と題するセッションで発表を行いました。「単一グレーディングスケールとリットロー構成を用いた 2 軸変位測定システムにおける非直交性誤差補償の概念」と題した講演は会場から複数の質問が投げかけられ、発表後も議論が続き、様々な大学から参加した研究者と交流を広げる機会となりました。MSEC への初参加ながら、米国のみならず世界各国の大学研究者とのネットワーク構築に極めて貴重な機会となりました。会議終了後にはフロリダ大学（ゲインズビル）を訪問し、機械航空宇宙工学科の研究室を巡りました。多数の教授と交流し、将来的な共同研究の可能性について活発な話し合いを繰り広げました。



FUTI Travel Award は、東京大学に在籍するテニユアを持たない研究者が対象で、学部生、大学院生、博士研究員（ポスドク）は対象外です。対象分野は、自然科学（例：医学、生物学、公衆衛生学、工学、化学、物理学、データサイエンス、情報技術）および、STEM に該当する広義の社会科学（例：計量政治学、経済学、公共政策への計量的アプローチ）です。本奨学金は、小規模（参加者数が約 300 人以下で、参加者が同一会場に宿泊・食事を共にするような形式）の国際学会への参加、および、学術機関に所属する研究者への訪問を目的とした、30 日以内の短期滞在を支援するものです。応募は年間を通じて受け付けています。是非、貴研究科・研究所の若手教員・研究者に広く周知していただけますと幸いです。選考に際してはアメリカへの訪問を優先しますが、応募者数によっては米国以外の訪問も検討します。

* 本記事は、応募者から提出された報告書に基づいています。FUTI Travel Award の詳細および受賞者のレポートについては、friendsofutokyo.org/travelaward をご参照ください。



FUTI 講演シリーズでは、米国を訪問された東大教授や著名な卒業生に講師になって頂き、東大卒業生などにとって関心の深い問題を議論、検討する場を提供しています。イベントは通常オンラインまたは、マンハッタンのミッドタウンの会場で開催されます。

講演テーマ	講師*	日時
伊藤隆敏氏による講演と懇親会「日本経済の課題：少子高齢化、財政の維持可能性、地政学的リスク」	伊藤隆敏 コロンビア大学	2025年1月24日
国際機関(国連、世銀など)で活躍されている方々のお話を聞く会	田中幸夫、世界銀行 平尾真一、国際連合軍縮部	2025年6月8日

さつき会アメリカ、シカゴ赤門会、ニューヨーク銀杏会、FUTI Alumni Associationなどの東大同窓会に共催、後援などの形でご支援をいただきました。

* 所属はイベント時の情報

FUTI Alumni Association



FUTI Alumni Association (FAA) の会長を務めております、コロンビア大学所属の羽場優紀です。FAA は、2010 年以降 200 名近くを輩出してきた FUTI 奨学金プログラムの同窓生同士が、世代や専門分野を超えて幅広いネットワークを築くことを目的として、2019 年春に発足した同窓会組織です。

2025 年の FAA の活動における大きな成果の一つは、FUTI のイベントチームと協力し、国際社会や日本経済をテーマとしたオンライン講演会を共催できたことです。1 月 24 日には、伊藤隆敏先生（コロンビア大学）を講師にお迎えし、「日本経済が直面する課題—少子高齢化、財政の持続可能性、地政学的リスク—」と題した講演会を開催しました。米国大統領就任直後という時期でもあり、日米両国の経済政策や国際情勢を踏まえた活発な議論や質疑応答が行われました。また、6 月 8 日には、田中幸夫氏をはじめ、国際機関で活躍される方々をお招きし、「国際機関（国連・世界銀行等）におけるキャリアとインターンシップ」と題するセッションを開催しました。2022-2023 年に国連で採用された 5,010 名のインターンのうち、日本からの参加者が 41 名にとどまる一方で、中国が 773 名、インドが 192 名であったというデータも紹介され、日本人学生の国際機関への参加拡大の重要性について示唆に富む議論が行われました。

これらのイベントには、FUTI の現役奨学生に加え、卒業生、理事・諮問委員の皆様にもご参加いただき、学問分野や世代を超えた交流の機会となりました。国際経済、公共政策、国際開発といったテーマを通じて、FAA が目指す「知的コミュニティ」としてのつながりが一層深まった一年であったと感じています。

FAA の活動は、FUTI 理事会・諮問委員会の皆様、イベントチーム、そして積極的に参加して下さる奨学生・卒業生の皆様のご支援によって成り立っています。この場を借りて、心より御礼申し上げます。FAA では、今後もイベント・交流会を対面で開催するとともに、FUTI 内の他グループと連携したオンラインイベントも継続して実施していく予定です。アラムナイネットワークのさらなる活性化に向け、皆様からのご提案やご意見を歓迎しております。今後の活動にもぜひご期待ください。



2024/2025 会計年度(2024 年 7 月 1 日から 2025 年 6 月 30 日)、FUTI は総額約 50 万ドルの御寄付を頂きました。ちなみに過去の寄付総額は、2012/13 年度から 2022/23 年度まで、各年度約 10 万ドルから約 30 万ドル規模へと成長してきました。寄付総額の増加は大口の寄付が複数加わったことによるものです。今年度の寄付額の大幅な増加は、東大友の会の前理事長である小林久志教授のご遺族が、小林久志記念奨学金設立へのご寄付をなされたことによります。

2009/2010 年度から 15 年間にわたりシンテック社からのトラスト分配の御寄付を頂戴し、2015/16 年度には米国伊藤財団からの御寄付が始まりました。そして 2022/2023 年度からは、中国上海市出身で、東京大学大学院で工学博士を取得された後に、米国で半導体関連の企業を多数設立して成功されたエンジェル投資家である周順圭・周滝沢愛子ご夫妻が東京大学ニューヨークオフィスへ寄付された基金を原資とする奨学金制度も始まりました。

近年、コロナ禍により 留学および国際学術交流が一時低調となりましたが、現在では留学規模も回復し、近年は年額約 30 万ドルの支給を続けています。シンテック社からのトラスト分配は、主に夏季の短期留学の支援に、そして「米国伊藤財団-FUTI 奨学金」と「周順圭・周滝沢愛子 奨学金」は、米国に中長期（一学期以上）留学する東大の現学生および卒業生を支援する奨学金として支給されました。

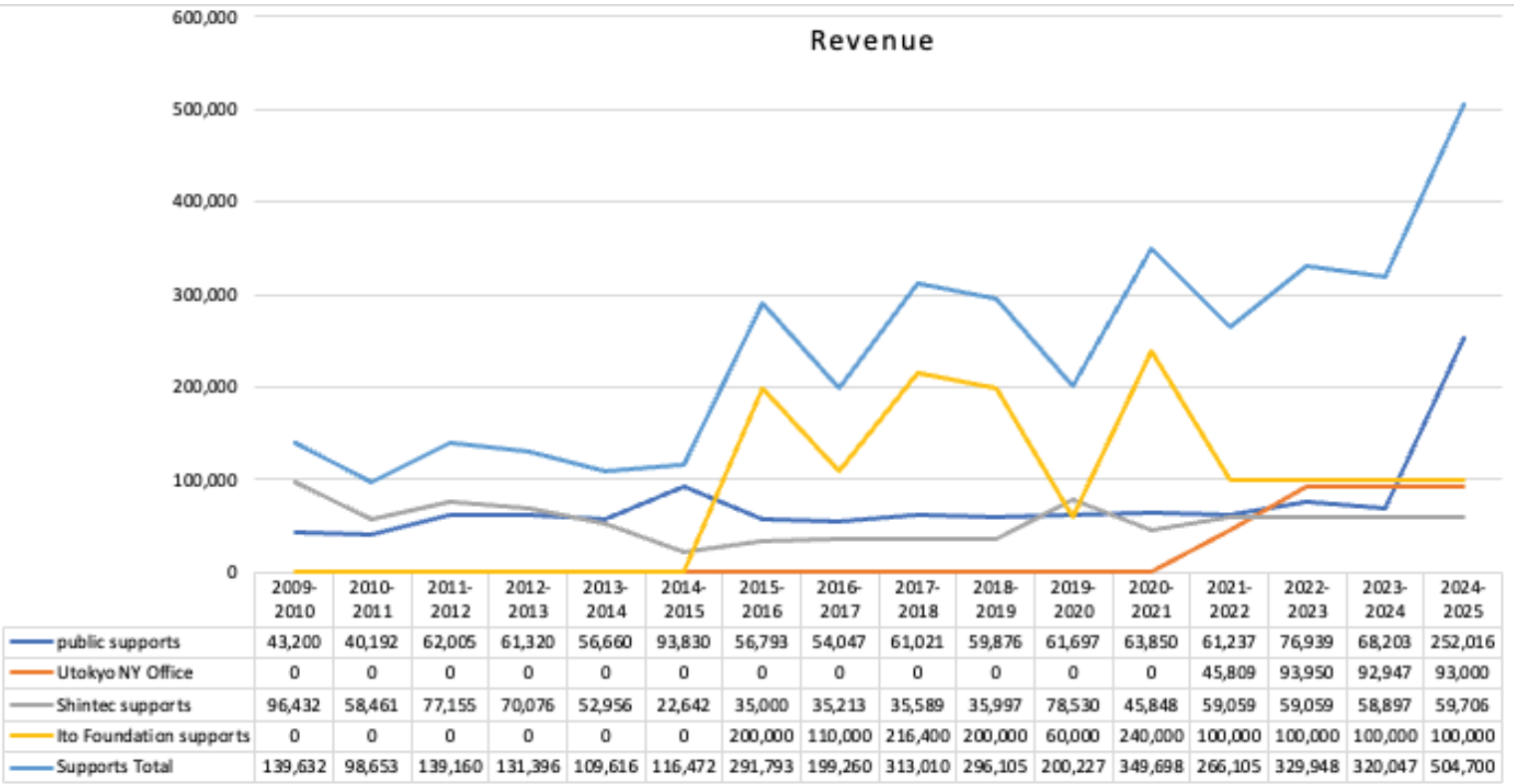
個人寄付者（general public）の数は、毎年 60-70 人で推移してきていましたが、コロナ禍で人々の交流が減少したことなどにより、近年は約 40 名と減少傾向が続いていました。2027 年には東京大学は設立 150 周年を迎えます。これを記念すべく、東大友の会は特別寄付キャンペーンを開始し、次世代のリーダーの育成という目的にご賛同いただける寄付者の裾野拡大に努力しています。その結果、多くの方々が寄付者として加わりつつあることをご報告申し上げます。

FUTI は大きな進歩を遂げ、影響力のある様々なプログラムを作成してきました。学業に励み努力する奨学金受賞者を誇りに思います。留学の成果として、国際的な賞の獲得や、研究論文の、『Nature』といった世界トップのジャーナルへの掲載などがあります。

多くの著名な大学、特に先進国を代表する他大学との競争がますます激しくなっているグローバルコミュニティにおいて、東京大学のプレゼンスを高めていくことをサポートするのは卒業生の喜びでもあります。多くのとても優秀な学生の国際社会での活躍を支援して下さったすべての方々に FUTI より深く感謝申し上げます。今後も皆様からの御支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



東大友の会への寄付:2009-2025(単位:USドル)





FRIENDS OF UTOKYO, INC.

貸借対照表
2025年6月30日

資産

流動資産:

現金	\$	263,994
制限付き現金		20,292
受取利息		4,314
短期投資有価証券		124,997
流動資産合計		413,597

長期投資有価証券

577,977

資産合計

\$ 991,574

負債・正味財産

負債:

グラント(研究助成金、奨学金)未払い分	\$	238,850
未払費用		7,793
負債合計		246,643

正味財産:

一般正味財産		724,639
制約付き正味財産		20,292
正味財産合計		744,931
負債・正味財産合計	\$	991,574

注: 数値は、2025年6月30日で終了した会計年度の監査済み財務諸表から引用しています。



FRIENDS OF UTOKYO, INC.

 活動計算書および正味資産増減計算書
 2025年6月30日に終了した年度

	使途制限 のない 正味資産	使途制限 のある 正味資産	合計
支援収入およびその他の収益:			
一般寄付金	\$ 336,852	\$ 108,164	\$ 445,016
信託分配による寄付金	59,706	—	59,706
利子および配当収入	26,902	—	26,902
投資収益	5,120	—	5,120
使途制限解除による正味資産の振替	143,349	(143,349)	—
支援収入およびその他の収益合計	571,929	(35,185)	536,744
費用:			
事業費			
奨学金および助成金	281,784	—	281,784
プログラム経費	2,072	—	2,072
支援費			
広報費用及び管理費	27,782	—	27,782
費用合計	311,638	—	311,638
正味資産の増加(減少)	260,291	(35,185)	225,106
期首正味資産	464,348	55,477	519,825
期末正味資産	\$ 724,639	\$ 20,292	\$ 744,931

注: 数値は、2025年6月30日で終了した会計年度の監査済み財務諸表から引用しています。

2024-2025会計年度寄付者芳名録



東大友の会の活動に対する温かい御支援と多額の寄付を賜りましたそのご厚志に深く感謝申し上げます。皆様のお陰で米国、日本、及び世界での東京大学の将来の持続的発展、共同プロジェクトや意見交換に協力すべく経済的支援や機会を提供することができます。

Benefactor (\$15,000 or more)

小林 久志、正江 \$200,000	米国伊藤財団 \$100,000	東大ニューヨークオフィス \$93,000	Shintech社 \$59,706*
-----------------------	---------------------	--------------------------	------------------------

Donor (\$1,000-\$14,999)

尾島 巖 \$6,000	Shigenori & Sumie Matsushita \$2,500	河本 雄 \$1,000
Krishen & Geeta Mehta \$5,000	藤崎 哲之助 \$2,500	山崎 舜平 \$1,000
武神 淳之 \$5,000	大迫 政子 \$2,500	浅見 徹 \$1,000
山田 雅章 \$5,000	木村 昭 \$2,000	若生 信弥 \$1,000
桜井 本篤、信子 \$3,500	董克勇 \$1,000	匿名2名
桑間 雄一郎、千佳 \$3,000	Koichi Hamada & Carolyn Beaudin \$1,000	

Supporting Member (\$500-\$999)

Shigenari Oketani \$609	岸岡 駿一郎 \$500
吉田 洋一 \$500	匿名3名
酒井 孝樹 \$500	

Friends (\$250-\$499)

Erika White \$250
匿名1名

Donations under \$250

浜田 穰太郎 \$120
渡邊 泰秀 \$100
匿名約25名

Names only (in alphabetical order)

Yasutomo Uemura	細田 満和子
永田 景子	本田 瞳美
羽場 優紀	池洲 諒
市瀬 史	

*5百万ドルの信託基金からの今年度配当分



理事メンバー

尾島 巖
理事長・CEO
University Distinguished Professor,
Stony Brook University – State
University of New York

桑間雄一郎
副理事長・財務担当理事・CFO
Mount Sinai Beth Israel、東京海上記念
診療所院長

武神淳之
副理事長・業務担当理事・COO
タイガーパシフィックキャピタル、
アドバイザー

小出昌平
大学担当理事
New York University School of Medicine,
Professor of Biochemistry and Molecular
Pharmacology; Perlmutter Cancer
Center at NYU Langone Health, Director
of Cancer Biologics

松下重恵
奨学金プログラム担当理事
Japan Wink Communications、元社長、
Member of the Japanese Computer
Pioneers

ギータ・メータ
国際同窓生プログラム担当理事
Adjunct Professor of Urban Design,
Columbia University; Founder and
President, Social Capital Initiatives

岡本康夫
Senior Counselor, Hughes, Hubbard &
Reed LLP

大迫政子
広報担当理事
Executive Director, International
Longevity Center (ILC) Global Alliance,
さつき会アメリカ幹事

桜井信子
奨学金プログラム担当理事
Lotus Circle Asia Foundation、
アドバイザー

津田敦
東京大学理事・副学長

伊喜利佳業
法務担当オフィサー
Vice President & Assistant General
Counsel, JPMorgan Chase Bank, N.A.

藤崎哲之助
会計
President, Ringo Software Technology,
Inc.

山田雅章
名誉理事長 (non-voting)
プリンストン・プラズマ物理研究所、
名誉研究員

榎田淳二
名誉理事長 (non-voting)
ニューヨーク銀杏会名誉会長

小宮山宏
名誉理事 (non-voting)
三菱総合研究所(株)理事長、
東京大学第28代総長

諮問委員会メンバー

山田雅章
委員長

藤崎哲之助

古澤えり
Director, HR&A Advisors

羽場優紀
FUTI Alumni Association、会長
博士研究員、コロンビア大学

浜田宏一
イエール大学名誉教授、
東京大学名誉教授

細田満和子
星槎大学、教授

伊喜利佳業

小出 明子
Research Assistant Professor, New
York University School of Medicine,
Perlmutter Cancer Center at
NYU Langone Health

河本 雄
グーグル合同会社、上級執行役員(政
策・政府渉外担当)

永田景子
Senior Portfolio Manager, Head of
Corporate Bond Group, Nippon Life
Global Investors Americas

小野 靖
教授、プラズマ・核融合工学、
東京大学

鈴木由利子
Principal, Y SUZUKI CONSULTING
LLC

董 克勇
ハーバード・ロー・スクール 講師、
ニューヨーク銀杏会副会長

エリカ・ホワイト
Attorney, Davis and Polk & Wardwell
LLP

長谷川泰
職権上の諮問委員
スタンフォード・シリコンバレー赤門会
会長

佐藤公一
職権上の諮問委員
サンフランシスコ赤門会、会長

田中 幸夫
職権上の諮問委員
ワシントンDCエリア
東京大学関係者懇親会、会長

山口勝之
職権上の諮問委員
ニューヨーク銀杏会、会長

Scholarship委員会

桜井信子
委員長

松下重恵
名誉委員長

大迫政子
小野 靖
尾島 巖
小出昌平
永田景子
細田満和子
山田雅章